

第5回 口腔機能って何だろう？

＝ 「口腔機能」は、感覚、認知、運動の機能が連携することで可能となる ＝

北九州在宅医療・介護塾
塾長 久保 哲郎

前回は、「捕食⇒摂食⇒嚥下」等の口腔の運動機能がスムーズに行われるためには、五感などの感覚情報が脳に入力され、その情報を脳が認知した後、口腔運動機能領域に運動情報として出力されることが必要ということについて紹介させて戴きました。

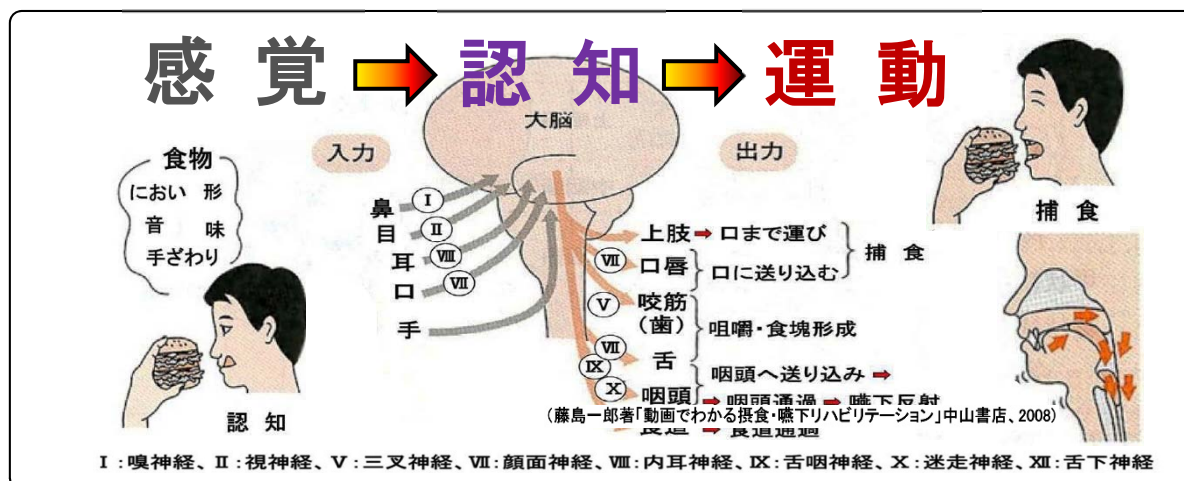
ところで、口腔の運動機能低下によって「食べられない、飲み込めない」等の症状がみられる場合には、口腔リハビリによって捕食⇒咀嚼⇒嚥下に関係する筋肉可動の改善を図りますが、同時に感覚機能と認知機能について評価を行い、低下している場合にはこれらの機能についても改善しなければなりません。

つまり、口腔機能は運動機能のみに囚われずに、感覚機能、認知機能、そして運動機能の3つの機能が適正に連携・協働が図られることが肝心で、このことによって

スムーズな「捕食⇒咀嚼⇒嚥下」を可能にすることになります。

感覚機能、認知機能そして運動機能の改善する方法については、後日ご紹介させて戴きます。

ちなみに口腔機能に関係する8本の脳神経についてですが、Ⅰ：嗅神経、Ⅱ：視神経、Ⅴ：三叉神経、Ⅶ：顔面神経、Ⅷ：内耳神経、Ⅸ：舌咽神経、Ⅹ：迷走神経、Ⅻ：舌下神経で、これらの脳神経による機能は、咀嚼：三叉神経、唾液の分泌：顔面・舌咽神経、味：顔面、舌咽、迷走神経、食物等の温度や硬さ、舌触り、噛み応え：三叉・舌咽・迷走神経、嚥下反射：舌咽・迷走神経といわれており、「しっかり噛んで、おいしく食べる」ことは、感覚機能、認知機能、そして運動機能が総合的に、そして適正に機能していることを意味しています。



(藤島一郎著「動画でわかる摂食・嚥下リハビリテーション」中山書店、2008)